

平成26年度  
宇都宮短期大学附属高等学校入学試験問題

国 語

注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 試験時間は、板書されている時間割のと通りの50分間です。
- 3 問題数は大きな問題が4問で、表紙を除いて10ページです。〔四〕は記述問題です。
- 4 解答用紙は2枚で、答え方はマークシート方式と記述式です。
- 5 監督者の指示にしたがって、試験開始前に受験番号と氏名をマークシート解答用紙のきめられた欄に書き、さらに受験番号をマーク欄にマークしなさい。
- 6 監督者の指示にしたがって、試験開始前に受験番号と氏名を記述用解答用紙のきめられた欄に書き、さらにバーコードシールをきめられた枠の中に貼りなさい。
- 7 答えは、それぞれの解答用紙に記載されている注意事項にしたがって、ていねいに記入しなさい。
- 8 試験中に質問があれば、手をあげて監督者に聞きなさい。
- 9 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、鉛筆をおきなさい。

—  
次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

① アメリカに留学していた友人が日本に帰って話してくれたことがある。彼はアメリカから日本へ帰る時、わざわざ遠回りをしてアメリカを横断してきたのだが、その途中で荷物をこっそりと盗まれてしまった。荷物の中にはカメラやスケッチ・ブックが入っていたらしい。しかし、スケッチ・ブックがなくなってしまったのは残念だったが、カメラはそれほど惜しいとは思わなかったという。むしろホッとしたくらいだともいう。② その気持はよく理解できる。多分、彼は物を持たずに旅をする自由さに気がついたのだ。

旅先ばかりでなく、日常生活においても同じことがいえる。物を持たなければ持たないほど自由さは増していく。物にしばられ不自由になりたくはない。私のポケットがいつもからっぽなもの、私にそのような思いがあるためともいえる。

物を持っていることの不幸は、それを失うことへの恐怖心が芽生えるところにある。その結果、保険などというものをかけずにいられなくなる。

③ 先日、久し振りに『トム・ソーヤの冒険』を読み返してみた。ふと、トムのポケットには何が入っていたのか正確に調べてみたくなつたのだ。

ある時、トムと一緒に暮らしている伯母おばさんに壼ペンキ塗りを命じられる。④ どうにかしてその仕事をさぼるつもりアのトムは、自分の全財産で友達を買収ウしようイと考えるが、その時彼のポケットに入

っている物は「玩具がんぐ、おはじき、それから、こまごまとしたもの」であるにすぎない。ところが、そのペンキ塗りをいかにも面白い遊エびだと思わせることで、( a ) 友達ともたちに代価を支払わせ「塗アせてあげればいい」というアイデアを思いつき、次々とやってくる少年たちから宝物を巻き上げたあとのトムはすばらしい財産家になる。⑤

上等の凧たこ、鼠ねずみの死骸とそれをふりまわす紐ひも、おはじきが十二個、ハーモニカの一部分、眼めに当てて見るための青いガラス壘びんの破片、犬の首輪、オレンジの皮四片、使えなかった窓枠、といった具合だ。これ以外にも、教会での礼拝中に騒ぎを引き起こす甲虫かぶとむしだとか、ゴムまりだとか、釣針つりばりだとかも持っている。

しかし、これらのすべてがポケットに入っていたとは考えにくい。入っていたのはせいぜいがこのうちの四、五個であり、一残りの大部分はどこかの秘密の場所に埋められたり、飼われたりしていたにちがいない。

トムは確かに財産家だが、しかしそれらの宝物に保険をかけるといふ発想だけはなかったものと思われる。どれも大事なものにはちがいないが、それは金に換算できるものではないからだ。万一失くなれば、きっと深く嘆き悲しむだろうが、それが何物にも替えがたいものであるからこそ、翌日にはすっかり忘れ去り、他の宝物に熱中することになるだろう。

それは何もアメリカのトムばかりでなく、全世界のトムたち、つまりほとんどの少年たちにおいても同じことがいえるはずだ。

( b )、やがてそのトムたちが成長し、青年になり、中年になつていくにつれ、失なうことを恐れはじめ。高価なものを持つようになるにしたがつて、保険というものと縁が深くなつていく。ダイヤに、毛皮に、車に、家に、盗難保険や火災保険といったものをかけるようになる。

『郵便配達は三度ベルを鳴らす』のジェームス・ケインに、保険勧誘員を主人公にした『殺人保険』という題のサスペンス小説がある。

『殺人保険』の重要な小道具は、鉄道事故にかぎり倍額の保険金を支払うという傷害保険である。主人公のウォルターが、本来は保険会社の側に立つべき自分がなぜ保険金の詐取<sup>(注1)</sup>をはかる女に加担するかを説明するくだりの中に、保険とはどういうものであるかについて簡潔に述べている部分がある。

《保険というやつは、世界最大の賭博<sup>(注2)</sup>機<sup>(注3)</sup>関<sup>(注4)</sup>なのだ。一見賭博とは見えないが、彼等が金の歩合<sup>(注5)</sup>を計算する仕方、諸君の得点を支払うときの顔の表情も、( c )賭博なのだ。諸君は、諸君の家が焼けると賭け、保険会社は、焼けないと賭ける。これが火災保険だ。ただ諸君は、賭けをするとき、自分の家が焼ければいいとは希<sup>(注6)</sup>つていないので、ついこれが賭けであることを見損うのだ》

失なうことを恐れるあまり失なう方に賭けるといふ逆説的な行為が保険だというのである。商業的な見地からすれば、保険とはヘッジ、つまり両天秤<sup>(注7)</sup>をかけることで危険を分散する方途と考えられる。「 I 」しかし、周囲の飾りをすべて取りはずし素裸<sup>(注8)</sup>にしてみれば、それはやはり何かを賭けての博奕<sup>(注9)</sup>であると見なすことが可能だ。

( d )、同じ保険でも、損害保険(生命保険以外の保険)と生命保険では微妙なちがひがあるように思われる。損害保険なら、その賭けに勝つた場合に自分で金を受け取ることもできるが、生命保険ではそうもいかない。生命保険も一種の博奕ではあるが、その賭けが誰のものかということによって損害保険とは別のものになるような気がする。「 II 」

生命保険とは、自分の命を担保にして、死後に残される者たちのために大きな賭けをすることだといえる。掛け金というチップの少ないうちの勝負がつけば勝ちだし、チップを営々と積み上げていけば負けになる。「 III 」死んでしまえば、金が入ってこようとこまいと関係ないのに、しかし人はあえてその賭けに加わろうとする。そんなばかばかしい行為をするのも、すべては残された者たちのためだ。

人はいつ青年でなくなるのか、それは恐らく、年齢でもなく結婚でもなく、彼が生命保険に加入した時なのではあるまいか。「 IV 」命のカタ(形跡)を誰かに残さねばならない、残したい、と思った時に彼は青年期を終えることになる。たとえその相手が誰であろうとも、生命保険へ加入した瞬間に、彼は青年の次の時代に入っていく。そんな気がしてならないのだ。

(沢木耕太郎「バーボン・ストリート」から)

(注1) 詐取<sup>(注1)</sup> Ⅱ 金品をだまし取ること

(注2) 歩合<sup>(注2)</sup> Ⅱ 取引高・出来高などに応じた報酬

(注3) 博奕<sup>(注3)</sup> Ⅱ 賭博・賭け事のこと

問一 ① アメリカに留学していた友人とトムについての説明として適当なものどれか。

ア 友人が留学中に物を持たずに旅をする自由さに気づいたように、物を所有することに情熱を傾けていた少年トムも大人になるにしたがって物への執着から解放されていく。

イ すばらしい財産家のトムとカメラを盗まれてホッとした友人とは対照的であり、物にしばられているかどうかという点でも二人は相反する生き方をしている。

ウ カメラを盗まれてようやく物にしばられる不自由さから解放された友人と、多くの物を所有する財産家でありながら最初から物に対する執着のないトムは共に自由な存在である。

エ 友人はカメラを盗まれたことでより物に対し執着するようになったが、財産にこだわっていないトムは物にしばられない自由な気持ちを持ち続けている。

問二 ② その気持はよく理解できる。とあるが、その理由として最も適当なものどれか。

ア スケッチ・ブックは、友人にとって思い入れのある品物であることを知っていたから

イ 筆者自身が物にしばられる不自由さを実感していたから

ウ 友人には以前から物を持たずに旅をしたいという思いがあるのに気づいていたから

エ 貴重品であるカメラに保険をかけていたのを聞いていたから

問三 ④ どうにかしてが直接かかる部分は、本文中の~~~~線アからエのどれか。

ア さぼる  
イ 買収しよう  
ウ 考える  
エ すぎない

問四 ( a ) から ( d ) に入る語の組み合わせとして適当なものどれか。

ア 「aまさしく bしかし cむしろ dだが」

イ 「aまさしく bむしろ cだが dしかし」

ウ 「aむしろ bまさしく cだが dしかし」

エ 「aむしろ bしかし cまさしく dだが」

問五 ⑤ トムはすばらしい財産家になる。とあるが、「トム」にとっての「財産」の説明として適当なものどれか。

ア 他には替えられないかけがえのないものであるため、喪失すれば嘆き悲しみ続けるしかないもの

イ 金に換算できない貴重なものであるからこそ、失われれば忘れ去るしかないもの

ウ かけがえのないものだけに、失ったときにはすぐにその代用を求めざるを得ないもの

エ 財産というほどのものではないので、失ってもいざれ忘れ去り、すぐに他に熱中するものを見つけられるもの

**問六**⑥ 逆説的な行為とあるが、その内容として最も適当なものはいずれか。

ア 絶対に起こるはずのないことを心配するあまり、高額の保険に入ってしまう行為

イ 掛け金を支払っていた人々が、自分の財産が失われることを希うようになってしまう行為

ウ 損害が生じない方に賭ける保険会社に対抗して、逆に自分が損害を受ける方に賭けてしまう行為

エ 損害を受けたくない人々が、自分の望みとは逆に賭けて掛け金を支払ってしまう行為

**問七** 次の一文が入るところは、本文中の「Ⅰ」から「Ⅳ」のどこか。適当なものを後から選べ。

賭けに勝つためには早く死ぬことだという残酷さが生命保険にはある。

ア 「Ⅰ」 イ 「Ⅱ」 ウ 「Ⅲ」 エ 「Ⅳ」

**問八**⑦ 損害保険……と思われる。とあるが、筆者は「生命保険」をどのようにとらえているか。次から選べ。

ア 損害保険が自分のために賭けるものであるのに対し、生命保険は残される者のためだけに賭けるものである点において、意

識の上での成長を印象付ける。

イ 損害保険は失うことへの恐れから生じるものであるのに対し、生命保険は残される者のために自分の命を投げ出すことも恐れのないものであるため、結婚していない人には理解が及ばない。

ウ 損害保険は自分の利益を前向きに追求するものであるのに対し、生命保険は自分への利益を期待しない消極的なものである点で、若者向けの保険とは言えない。

エ 損害保険は利己的な青年期の人々が関心を寄せるものであるのに対し、生命保険は残された者のことを考えた利他的なものであるため、加入しようと思うのは大人<sup>おとな</sup>だけである。

**問九** 本文の論の進め方として適当なものはどれか。

ア 冒頭で問題点を指摘したうえで、読者にとって身近な事例を挙げ、これからの生き方を提案している。

イ 冒頭で筆者の主張を具体例で示し、それと対照的な例を二つあげること、思い通りにならない人生をほのめかしている。

ウ 冒頭で筆者が日ごろ感じている問題点について、文学作品の論理的な分析を通して、最終的に筆者自身の答えを導き出している。

エ 冒頭での例を通じて筆者の基本的考え方を示し、それと関連させて複数の小説を例にとりながら、人間の成熟についても論述している。

## 二

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

翌年の春、千絵子はその教会のある大学の文学部に合格した。ぼくは東京の国立一期校の医学部に落ちた。発表の夜、構内で顔を合わせた、法学部と経済学部合格した二人の友人から、山の診療所の医者になるんなら、どこの医学部だっていいじゃねえか、と、<sup>①</sup>今にもほころびそうな真面目な顔でなぐさめられた。ぼくは一度も見なかったことのない、東北の二期校に新設された医学部に入った。日本海に面した、陽の照ることが少ない町で、ぼくはほとんど大学には行かず、東京の大学を受けなおすための受験勉強と、千絵子の手紙を待つだけの下宿生活をしていた。夕方になると、東京の方の空を窓から身を乗り出して見つめているように、<sup>②</sup>めんどろみのよい下宿のおばさんは、死んだらつまらねべ、と言いつづけてくれた。千絵子からの手紙を二階の部屋に持ってきてくれるときは、つらいけれど、女は離れたらだめだて、と、言った。

**A** 手紙は、ほぼ二週に一度の割で来た。留学生の多い大学なので、国際的な雰囲気があつて、外から見ているときも好きだったけれど、中に入ってみるともつと好きになれそうな大学であること。教養課程の時期に志望を変えてもいいので、国文はやめて英文にしようと思つていること。そんなわけで、サークルはシェイクスピアを読む会に入つたこと。筆圧の高い整つた字が、今にも躍り出しそ

うだった。そして、いつも手紙の最後の一枚には、毎回異なつたデザインデザインの診療所の絵が、ときには丸太造りで、時にはエスキモーの氷の家のように、ていねいに色鉛筆で描かれていた。

夏休み前の定期試験だけは受け、ぼくは夜行にとび乗つて東京に帰つた。国電の四ツ谷駅のホームで待ち合わせるこゝになつていたので、約束の十一時までにはまだ一時間ほど間があつたので、ぼくは千絵子のいる大学のキャンパスを通つて土手に登つた。テニスコートを見おろすベンチに腰かけて、不精髭がじようひげのびてしまつた顎あごをさすつてみると、サーブの練習をしているらしい女子学生が、トスを上げたままぼくの方を見、肩にかつごうとしていたラケットを大きく振つた。彼女は首にタオルを巻いたコーチらしい男に近づき、一礼してから、ラケットを手にしたまま土手を駆け上がった。千絵子だった。白いテニスウェアが、夜行で寝ていない目にまぶしかった。ベンチの横に座つた千絵子に、ぼくは不精髭をさすりながら、まだ校舎もできていない田んぼの中の医学部の話をした。その浅黒く陽に焼けた顔には、浪人時代のニキビは消えていた。ラケットを膝ひざにもどした千絵子は、おもむろに、シェイクスピアを読むサークルサークルで知り合つた男の話を始めた。シェイクスピアの妻は八歳年上だったから、八歳上、ハザウェイっていうんだ、というジョークをニコリともせずに教えてくれた男。とても無口なだけけれど、当時のイギリスのことを、教授以上に、まるでその頃住んでたみたい

によく知ってる人なのよ、といった。

診療所の話をしようと思っていたぼくは、不精髭をさする手を止め、黙った。気まずい沈黙を破ってくれたのは、背後の教会の鐘ではなく、下のコートで千絵子の名を呼ぶコーチの声だった。「Ⅰ」  
「ごめんなさい。十分だけ言ってきたもんだから。じゃ、十一時に駅で」土手を下る千絵子の白い姿の向こうに、黄色い電車が走っていた。よく晴れた七月の昼近く、その黄色い車体はくすんで見えた。寝ていないせいだ、と思おうとした。その夏、千絵子は学生相手の語学ツアーでイギリスの大学に行った。ぼくは予備校の夏期講習を受けた。

秋に東北の町にもどってから、千絵子からの手紙の数は（ a ）減った。下宿のおばさんはもうなにも言わなかった。

④ 枚数も少なくなつた手紙の最後に描かれている絵は、イギリスの大学にあった時計台だったり、テニスのラケットだったりした。十月の大学祭の休み――ぼくは東京には行かず、下宿にとじこもつて受験勉強の追い込みにかかった。その頃、ぼくは（ b ）医学部にこだわらなくなっていた。文学部でもなんでもいいから、とにかく東京で、千絵子の近くで暮らしたかった。しかし、古典を暗記したり、英作文の問題集に取り組んでいるとき、（ c ）あの土手をかけ降りていった千絵子と、くすんだ黄色の電車が白いノートの上に浮かび、消え去るまでの数時間、ぼくは額をかかえたまま（ ）することが多くなつた。十一月になると雪が降つた。下宿のおばさんが部屋にお茶を持って来てくれる回数が増えた。

この冬はよお、生まれ育つたおれでも暗くてつれえもの、と言いつながら。「Ⅱ」

冬休みに帰つたとき、上野駅のホームには、千絵子と並んだ、背の高い、長髪の、色白の男が出迎えてくれた。「お友だち」千絵子はくつたくなかない声で、ぼくをその男に紹介した。「おうわさは彼女かろうかがっています」男はいいいに頭を下げてから、両手で長い髪をかき上げた。ぼくは二人のあとについて上野駅を出た。東北の下宿での受験勉強の最中、白いノートの上にこんな光景も浮かんできたことがあつたのを、明確に思い出していた。「Ⅲ」すべては、あの白いノートの上で予想されていたことだったのだ。「お茶でも飲みませんか」男は、白いノートの中で言ったのとそっくりおなじに、さりげない口調で誘つた。「Ⅳ」そこまでが、ノートの中であらかじめ予想できていた場面の終わりだった。ぼくは腰をひくくしたままの姿勢で走りだし、点滅中の信号を渡り、（注4）アメ横の年末の雑踏に逃げ込んだ。⑤人混みに体をあずけて、奥へ奥へ流されていった。（ d ）体が軽かった。川を流れる古木のように、体の中に無数の空洞があいているようだった。

（南木佳士「冬への順応」から）

（注1） 国立一期校Ⅱかつて実施されていた入試制度の区分

（注2） シェイクスピアⅡイギリスの劇作家、詩人

（注3） サークルⅡ同じ趣味や活動を行う集団

（注4） アメ横Ⅱ東京の上野駅近くにある商店街

**問一** ① 今にもほころびそうな真面目な顔とあるが、その時の「二人の友人」の様子として適当なもののはどれか。

- ア 「ぼく」の合格を祝福しているものの、落胆している本人の気持ちが理解できず困惑している様子
- イ 「ぼく」が落ちたことを内心では嘲笑い、自分が合格できたことに優越感を持っている様子
- ウ 合格できた喜びでいっぱいになりながらも、落ちた「ぼく」に配慮して平静さを装っている様子
- エ 不合格であった「ぼく」に失望しながらも、表面的にはなくさめようとしている様子

**問二** ② めんどくさいのよい……と言いつづけてくれた。とあるが、その時の「おばさん」の様子として最も適当なもののはどれか。

- ア 「千絵子」のことで思いつめて沈んでいる「ぼく」の心を励まそうとしている。
- イ 受験に失敗して落胆している「ぼく」に気力が戻るようになくさめている。
- ウ ほとんど大学に行かない「ぼく」がやる気を出すように応援している。
- エ 都会の生活に戻りたがっている「ぼく」が東北に残るように説得しようとしている。

**問三** **A** の段落に表れている「千絵子」の様子として適当なものはどれか。

- ア 充実した大学生活に満足しているとともに、「ぼく」に対する変わらぬ好意があふれ出ている。
- イ 「ぼく」となかなか会えない寂しさで胸がいっぱいになっており、早く会いたいという気持ちが募っている。
- ウ 思ったよりも大学が楽しい場所であることに安心し、「ぼく」の上京を待ち望んでいる。
- エ 新しい環境のもとで生まれ変わることを決意し、「ぼく」に対する関心を失いつつある。

**問四** 次の一文が入るところは、本文中の「Ⅰ」から「Ⅳ」のどこか。適当なものを後から選べ。

ぼくは思わず最敬礼をした。

- ア「Ⅰ」
- イ「Ⅱ」
- ウ「Ⅲ」
- エ「Ⅳ」



**問五** <sup>③</sup> その黄色い車体はくすんで見えた。とあるが、その時の「ぼく」の気持ちとして最も適当なものはどれか。

- ア 「千絵子」との会話をじやましたコーチに対する怒り
- イ 「千絵子」の心が自分から遠ざかっていきそうな不安
- ウ 「千絵子」がいきなり男の話を持ち出したことへの戸惑い
- エ 「千絵子」に夜行で会いに行くという性急な行動への反省

**問六** ( a ) から ( d ) に入る語の組み合わせとして適当なものはどれか。

- ア 「a 妙に                    b めつきり                    c ふと                    d もう」
- イ 「a 妙に                    b めつきり                    c もう                    d ふと」
- ウ 「a めつきり                b 妙に                    c もう                    d ふと」
- エ 「a めつきり                b もう                    c ふと                    d 妙に」

**問七** <sup>④</sup> 枚数も少なくなつた………だつたりした。とあるが、この一文が示していることの説明として適当なものはどれか。

- ア 語学ツアーを体験して、「千絵子」がイギリスへの関心を深めたことを暗示している。
- イ 大学でしっかり勉学に専念しようと思っていた「千絵子」が、次第に興味にのめりこんでいくことを暗示している。

ウ 「千絵子」の気持ちが「ぼく」から離れつつあり、二人の関係が変化していくことを暗示している。

エ 「千絵子」の考えていることに、「ぼく」が興味をなくしてしまつたことを暗示している。

**問八**  に入る言葉として適当なものはどれか。

- ア 息が通つたり
- イ 息を抜いたり
- ウ 息がかかたり
- エ 息を殺したり

**問九** <sup>⑤</sup> 人混みに………流されていった。とあるが、その時の「ぼく」の様子として最も適当なものはどれか。

- ア 「千絵子」に対して激しい怒りと絶望感がこみ上げてきて我を失っている。
- イ みじめな気持ちは抑えようもなく、空虚な気持ちに襲われている。
- ウ きつぱりと「千絵子」への思いを断ち切ることができ、解放感に浸っている。
- エ 今までの自分の思いが無駄になつてしまい、無力感に打ちひしがれている。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

(注1) 姫君ヲ探スタメニ中将ハ初瀬ニモツテ  
初瀬に籠りて、夜もすがら行ひて、暁がたに少しまどろみたる

夢に、やんごとなき女、そば向きてゐたり。さし寄りて見れば、

我が思ふ人なり。<sup>①</sup>うれしきせんかたなくて、「いづくにおはしま

すにか。(コノヨウニツライ目ニ会ワセナサツテ)いかばかりか思ひ嘆くと

知り給へる」と言へば、うち泣きて、「かくまでとは思はざりし

を。いとあはれにぞ」と言ひて、「今は帰リなん」と言へば、

袖をひかへて、「おはします所、知らせさせ給へ」とのたまへば、

(海ノ底トモドコトモ知ラナイヲ嘆イテイルト)  
わたつみのそことも知らずわびぬれば

(注2) 住吉とこそ海人は言ひ

と言ひて立つを、ひかへて返さずと見て、うちおどろきて、夢と

知りせばと悲しかりけり。(すみよしのものがたり) 「住吉物語」から

(注1) 初瀬||現在の奈良県にある長谷寺

(注2) 住吉||現在の大阪府にある地名で「住みよし」との掛詞

問一 (a) 行ひて、(b) おどろきての本文中での意味はそれぞれどれか。

(1) (a) 行ひて (b) おどろきて

ア 読経などをして

ウ 人を訪ねて

(2) (b) おどろきて

ア 起き上がった

ウ 目を覚まして

問二 <sup>①</sup>うれしきせんかたなくて、とあるが、この時の「中将」の様子として適当でないものはどれか。

ア 探し続けた「姫君」に会えた喜びを押さえられない様子

イ 初瀬の仏に祈りが通じた喜びでいっぱいになっている様子

ウ 女が「姫君」であることに気付き、喜びがわきあがる様子

エ 夢の中とはいえ、「姫君」に会えた喜びを隠しきれない様子

問三 <sup>②</sup>かくまでとは思はざりしを。とあるが、何を思わなかったと

ア 自分を失った「中将」の悲しみが非常に深いということ

イ 自分に対する「中将」の失望が尋常ではないということ

ウ 自分を非難する「中将」の恨みがとても強いということ

エ 自分が「中将」を愛する気持ちが大きかったということ

問四 に入る語として適当なものどれか。

ア けり

イ けれ

ウ ける

エ けむ

問五 <sup>③</sup>夢と知りせばに続く「中将」の気持ちとして最も適当なものはどれか。

ア よく眠れなかった

イ 夢を見ることができたのだろう

ウ 「姫君」に会えたはずなのに

エ 夢から覚めなかっただろうに

## 四

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「ワン・モア・シング」——「あ、それからもう一つ」という感じか。アップルの新商品開発に詰めかけた人はステイブ・ジョブズ氏のこの言葉を待った。まるで言い忘れていたヨダンの**1**口調で、思いがけぬ新製品を紹介したからだ**▲**80年代から人々を魅了してきたジョブズ氏のプレゼンテーションだ。一度は追放されたアップルの経営危機の下、トップに戻って出した**2**の新製品iPodの発表では後発のデジタル音楽機器への参入をこう説明した**▲**「それは我々が音楽を愛するからです」**「ここ」**はマーケティングリーダー**注2**がい**注3**ない。誰も成功のレシピを**注4**見していない。我々にはそのレシピがある。倒産寸前だった同社は10年後、株式会社総額世界一となる**注1**（竹内一正著「ステイブ・ジョブズVSビル・ゲイツ」）**▲**「彼は大胆にも世界を【変える】と信じ、それを実行するのに十分な才能を持っていた」。56歳での死去が伝えられたジョブズ氏をこう悼んだのはオバマ米大統領だ。35年前のガレッジでの起業に始まったアメリカンドリームはデジタル技術と人の関係を一変させた**▲**自身はプログラムを書いたり、機器の図面を引いたりはしなかったというジョブズ氏だ。技術者が「できない」と言うことにはすぐ「君ならできる」と返した。作り手の発想にとらわれず、人々が欲しがる物を大胆に提示して**注4**企業をけん引していった彼の天才だった。

（毎日新聞「余録」から）

（注1）プレゼンテーション⇨企画などを発表・提示すること

（注2）マーケティングリーダー⇨人々の購買行動に影響力を持つ人

（注3）レシピ⇨方法

（注4）けん引⇨先頭に立ち、同類や一般社会をリードすること

問一 ヨダン、ジカを漢字で書きなさい。

問二 魅了、後発の読みをひらがなで書きなさい。

問三 **1**に入るひらがな三字の語を答えなさい。ただし、**1**と呼応するものとする。

問四 **2**には「絶望的な状態を期待の持てる状態に変える」という意味の四字熟語が入る。次にあげるその四字熟語の「ア」「イ」に入る漢字をそれぞれ答えなさい。

「ア」死「イ」生

問五 【変える】を、五字以内で可能の表現に直しなさい。

問六 十分な品の詞名を漢字で答えなさい。

問七 起業と企業のような関係の語を何と呼ぶか。解答欄の「語」に続くように漢字四字で答えなさい。